

ONE PUNCH MAN COSMIC  
～ワンパンヒーローと  
宇宙ヒーロー～

ルオン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

我望 銀牙

彼は、仮面ライダーフォーゼこと如月弦太朗の弟子である

彼は2代目仮面ライダーフォーゼとして様々な世界を渡り歩き、世界を救いながら力を得てきた

ある日、自身の世界に現れた謎の怪人と戦い、死んでしまう

死後、彼は知り合いの神アルマと再会し、新たな世界へ転生する

これは様々な世界を渡り歩き救ってきた宇宙ヒーローが、新たな世界で仲間たちと共に戦う物語である

# 目次

プロローグ：宇宙ヒーローの死 | 1



# プロローグ：宇宙ヒーローの死

とある世界

雨が降る街中で、1人の青年が頭から血を流しながら立っていた。

そして青年の向かい側には、ドス黒いオーラを出した、紫色の怪物が立っていた。

『諦めろ2代目。貴様では我には勝てん』

「んなもん、やってみなきゃ分からねえだろ？」

『諦めが悪い奴だな』

「生憎、諦めの悪さは、師匠たち譲りでな!!」

そう言った青年は腰にある物を巻きつけると、その姿を仮面の戦士へと変える。

そして姿を変えた青年の手には、剣が握られていた。

『今の貴様の状態では、十分なエネルギーは出んだろう。例え他の姿の力を加えても、俺を倒すことはできん』

「いゝや出せる」

『バカな……どこにエネルギーが余っている?』

「あるじゃねえか……ここにな!!」

そう言いながら、心臓部分を叩く青年。

『まさか貴様?!死ぬつもりか?!』

「テメエは、この世界を潰したら、別の世界も潰すって言ってたからな……俺の命を燃やさねえと勝てねえとおもった」

『何故だ!?!何故そこまでして世界を守ろうとする!?!』

「何故? 決まってる………ダチの為さ」

『ダチ?』

「俺には、自分の命に変えても守りてえダチがいる………そいつら守る為なら、この命惜しくねえ!!」

『バカな……無駄だと分かってやるのか!?!』

「無駄かどうかは………やってみなきゃ分かんねえさ!!」

青年はそう言うと、腰に巻きつけた物についているレバーを何回も動かす。

〈オーバリーミットブレイク〉

「うおおおおおおお!!」

腰に巻きつけ物から音声が鳴り、青年が雄叫びをあげると、青年の体からものすごい量のオーラが放出され、剣の剣先からオーラの剣が形成される。

『バカな!?!こんなこと……ありえない!!』

「ありえねえ事をやってみせんのが……俺たちスーパーヒーローだ!!ライダー……超超銀河フィニッシュ!!」

青年はオーラで形成された剣を振り下ろす。

怪物は腕をクロスして、その剣を防いだ。

しかし、怪物はあまりの重さに耐えられず膝を崩してしまふ。

『な、なんだこの重さは!?!』

「この重さは俺の……ダチを想う想いの力だ!!」

『想いの……力……!?!』

「いつけええええええ!!」

『ぐううう………がああああああ!?!』

怪物は剣に耐えきれず斬られ、爆砕した。

それに合わせるかのように雨が止み、雲が晴れていく。

そして雲が晴れた事により出てきた太陽の光が、青年を照らした。

「……仇は討ったぜ? トワイ……お前のおかげで勝てた」

——ドサツ——

青年はこの戦いで亡くなってしまった友に礼を言った途端、仰向けに倒れた。

「はは………どうやら逝くみたいだな………レイン、師匠達、先輩方………後を………頼

……む……」

青年はそう言って、静かに瞳を閉じて息を引き取った。

数分後、青年の仲間が駆けつけ、青年は世界に英雄として語られる事となった。

こうして青年——我望へがもう——銀牙へぎんがの物語は幕を閉じた

しかしそれは、一時的なものであった。

真つ白な空間

そこに死んだ筈の我望　銀牙が横たわっていた。

「……………あれ？ここは？」

目を覚ました銀牙は体を起こし、辺りを見渡す。

「ここはいつたい……俺は死んだ筈なのに……」

「そう、君は死んでしまったんだよ銀牙」

「(この声は!?)」

銀牙は突然聞こえてきた声に驚き、後ろを振り返る。

「アルマ!？」

「やあ久しぶり銀牙♪」

そこにいたのは銀牙の友で、世界を見守る神の一人であるアルマであった。

「アルマがいるって事は……ここはあの世か？」



「正確には、生と死の狭間だよ。あの世と皆が生きる世界の通り道だと思ってくれれば  
いいよ」

「そうなのか……俺はどうなるんだ？」

「それなんだけど、転生してみないかい？」

「転生？」

「別の世界に行つて、生きることさ」

「ふむ……」

アルマに提案され、考えこむ銀牙。

「アルマ、転生を頼む」

「りよくかい!!欲しい特典はあるかい？」

「特典か……俺が使っていた力を持っていけるようにしてもらってもいいか？」

「いいよ。他には？」

「ない……アルマ、頼みがある。——頼めるか？」

「それくらい、御安いご用さ」

「頼んだ」

銀牙がそう言うと、銀牙の目の前に扉が現れる。

「そこを通れば、君は新しい世界に転生できるよ」

「分かった……色々ありがとな!!アルマ!!」

そう言った銀牙は扉を通り、転生する。

こうして、我望 銀牙の、仮面ライダーフォーゼの物語が再び動き出したのだった。